

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校読売自動車大学校
設置者名	学校法人読売理工学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	自動車整備学科	夜・通信	1994.0	160	
	1級整備学科	夜・通信	3806.8	320	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 <a href="https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html">https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html</a>
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校読売自動車大学校
設置者名	学校法人読売理工学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 <a href="https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html">https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	トヨタ財団顧問、元文部 科学大臣	2022.5.30 ～ 2024.5.30	教育行政に精通し た立場からの教育 目標、教育内容のチ ェックおよび提言
非常勤	読売新聞グループ本社 取締役副社長・経営管 理・ネットワーク・DX担 当 読売新聞東京本社代表 取締役副社長	2022.5.30 ～ 2024.5.30	法人運営に係わる 指導およびガバナ ンスの点検
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校読売自動車大学校
設置者名	学校法人読売理工学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。					
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)					
【作成について】 各授業科目については毎年度、学内の教務委員会で作成したものを学科会議で審議を行い、科目や授業内容などを決定している。その内容を基に、各教科担当者がシラバスを作成して、教務委員会に提出している。シラバスの作成にあたっては、全学科・全学年・全科目において、統一のフォームで作成している。					
【時期について】 翌年度の各教科担当者が3月までに作成し、4月上旬にHP上に公開。更に授業においてシラバスの内容を学生に説明してから授業を展開している。					
授業計画書の公表方法	ホームページにて公表 <a href="https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html">https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html</a>				
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。					
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)					
「読売自動車大学校細則」に規定					
第10条 各科目の成績は、定期または随時に行う試験及びレポート・作品その他に基づいて、それぞれの科目担当教員が認定する。					
(1)各教科の評価が60点以上でもその教科の出席率が規定に満たないものは不合格となるため、担当教員の指示に従わなければならない。					
(2)実習の評価は、実習試験点、実習レポート点、実習態度点を加算して行う。各々の比率は、実習試験50% (所定の時間にて、実技を中心として行う)、レポート30% (実習中の課題をまとめる)、態度20% (実習に取り組む姿勢があるか)をもって評価する。					
(3)各教科の評価には出席率及び学習態度を考慮することができる。					
(4)各教科の単位認定と評価評定は、別表の通りとする。					
判定	単 位 認 定				不合格
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点
評定	秀	優	良	可	不可

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>支援対象者の成績要件判別規定</p> <p>1. 成績順位が、下位4分の1でないこと。下位4分の1の対象者に対して指導する。</p> <p>2. 判定方法は以下の通りとする。</p> <p>(1) 成績処理システムの「学年計」(各教科の素点合計。ただし、単位未取得者の素点は0としている)をもとに、年2回の期末試験終了後に各教科の素点合計が多い順に順位をつけ、下位4分の1でないこと。</p> <p>(2) 判定資料として、「成績順位一覧表」と「素点合計の度数分布表」を作成し、判別の明確な根拠として1年間保存しておく。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページにて公表</p> <p><a href="https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html">https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>「読売自動車大学校細則」に規定</p> <p>第11条 進級・卒業の認定は、出欠及び成績の状況に基づいて、校長の招集する学科長会議において行う。</p> <p>第12条 進級・卒業の認定は、次に定める進級・卒業基準に基づき、指定する科目を修得していなければならない。</p> <p>(1) 進級、卒業基準を満たすためには、必修科目をすべて修得しなければならない。</p> <p>(2) 自動車整備学科</p> <p>○卒業基準を満たすためには、1・2年次(二級課程)の2年間で学科600時間以上、実習1,200時間以上を修得しなければならない。</p> <p>(3) 1級整備学科</p> <p>○卒業基準を満たすためには、3・4年次(一級課程)の2年間で1800時間以上かつ学科280時間以上、実習465時間以上、実務実習750時間以上をそれぞれ修得しなければならない。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>ホームページにて公表</p> <p><a href="https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html">https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html</a></p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校読売自動車大学校
設置者名	学校法人読売理工学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	6月中旬に最新情報をホームページにて公表 <a href="https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html">https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html</a>
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

## 2. 教育活動に係る情報

### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	自動車整備学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800 単位時間	674.8 単位時間	277.2 単位時間	1246.4 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2198.4単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		174人	132人	14人	9人	23人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要】の4.を参照
学修支援等
（概要） クラス担任が個別面談を行い、生活面・就職活動など、きめ細かく指導している。さらに、カウンセリングルームを設置しており、臨床心理士がカウンセラーとして教員と連携した支援体制をとっている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
83人 (100%)	6人 (7.2%)	69人 (83.1%)	8人 (9.6%)
（主な就職、業界等） 自動車ディーラー、自動車関連など			
（就職指導内容） 教員2名、職員1名の就職担当者が中心に就職指導を行うが、就職相談や面接練習などをクラス担任も随時行っている。就職関連の授業では企業の人事担当者による講演も実施している。			

(主な学修成果 (資格・検定等) )

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
二級ガソリン自動車整備士	②	83人	81人
二級ジェル自動車整備士	②	83人	81人
電気自動車等の整備特別教育	③	84人	78人

- ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
- ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
- ③その他 (民間検定等)

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
220人	25人	11.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済的事情、学校生活不適合、学力不足など。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 補講授業による学習支援を実施。担任、留学生相談室員による生活指導、個人面談の他に、臨床心理士によるカウンセリングを実施している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	1級整備学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3600 単位時間	926.8 単位時間	375.2 単位時間	3072.8 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			4374.8単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
140人	67人	11人	14人	9人	23人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要】の4.を参照
学修支援等
（概要） クラス担任が個別面談を行い、生活面・就職活動など、きめ細かく指導している。さらに、カウンセリングルームを設置しており、臨床心理士がカウンセラーとして教員と連携した支援体制をとっている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
23人 (100%)	0人 (0%)	20人 (87.0%)	3人 (13.0%)
（主な就職、業界等） 自動車ディーラー、自動車メーカー、保険会社など			
（就職指導内容） 教員2名、職員1名の就職担当者が中心に就職指導を行うが、就職相談や面接練習などをクラス担任も随時行っている。就職関連の授業では企業の人事担当者による講演も実施している。			



(主な学修成果(資格・検定等))

資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
一級小型自動車整備士	②	23人	17人
職業訓練指導員	③	18人	3人

- ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
- ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
- ③その他(民間検定等)

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
70人	2人	2.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 補講授業による学習支援を実施。担任、留学生相談室員による生活指導、個人面談の他に、臨床心理士によるカウンセリングを実施している。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
自動車整備学科	200,000 円	460,000 円	540,000 円	その他：施設・維持費、実習費
1 級整備学科	200,000 円	460,000 円	540,000 円	その他：施設・維持費、実習費
修学支援 (任意記載事項)				
「小林與三次記念育英奨学金」「読売理工専校校友会特待生」「1 級整備学科特待生」などの本校独自の奨学金制度あり				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html">https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
自己点検評価の客観性と透明性を高めることを目的に評価結果の公表を行う。また、自動車整備関連業界、卒業生、保護者等の学校と密接に関係する者に対し、本校教育課程の内容への理解を促進し、継続的な連携協力体制の維持を図るために「学校関係者評価委員会」を設置し、当委員会の意見を学校運営等の改善のために活用する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社関東マツダ 人財開発部 採用グループ	2022. 4. 1～ 2023. 3. 31	企業
亀戸二丁目町会 会長	同上	地域
専門学校読売自動車大学校 同窓会 会長	同上	卒業生
1 級整備学科 2 年 保護者	同上	保護者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html">https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html">https://yccm.ac.jp/guidance/disclosure.html</a>
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	専門学校読売自動車大学校
設置者名	学校法人読売理工学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		12人	12人	12人
内 訳	第Ⅰ区分	－人	－人	
	第Ⅱ区分	－人	－人	
	第Ⅲ区分	－人	－人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				12人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。